

令和 7 年度裾野市地域公共交通活性化協議会(第1回)議事録

日時:令和 7 年 6 月 4 日(水)15:00~16:30

場所:裾野市役所 4階会議室

・出席者 別添資料 No.1のとおり

1. 開会

2. 任期中の委員、交代等について

・R6 および R7 の二年任期

・都市計画課の所管替えのため、会長が市長戦略部長、副会長が建設部長となる

3. 会長挨拶

4. 委員及び出席者紹介 【資料No.1、2】

・名簿に代えて割愛

5. 議事

(1) 地域公共交通活性化協議会について 【資料No.3】

・資料に沿って説明

【質疑】なし

(2) 令和 6 年度決算・監査報告・令和 7 年度予算(案)について【資料No.4】

・資料に沿って説明

・監事より監査報告

・賛成多数により承認

【質疑】なし

(3) 高齢者バスタクシー利用助成券について 【資料No.5】

・資料に沿って説明

【質疑】

○藤井委員:他市町に比べると交付率 20%は低いと感じる。ドライバーの年齢が高いのか、普段の移動手段が地域の中でサポートされているのか。事務局の感覚を教えてほしい。助成券の魅力が無いのか、考えてほしい。市単独の補助で力を入れられない実情があるのは分かるが、使ってもらえるように工夫してほしい

⇒自家用車で移動される方が多いのが理由だと考える。広報やオンライン申請で交付を増やそうと考えている。

○高橋委員(東地区長):一度の利用で 200 円じゃ使えなかったが、妻と二人で 4,000 円使えば三島にも行けるが、帰りがタクシー会社の制限があるため不便。上限撤廃は良い取り組みだと思うので、周知が足りないんだと思う。

⇒まだまだ周知が足りない部分はあると思うので、利用例なども合わせて周知したいと考える。

○中川委員(ミツワ交通):月ごとの交付数が 1 月を境に申請が増えたようなことはあるか。

⇒上限撤廃を行い、広報も行ったため、令和 6 年 1 月から、昨年比べて申請が増えている。

○岩井委員(深良地区長):一枚も使っていない人をどう確認したか。前年度に交付した人には郵送していると思うが、今年は2,000人程度に郵送したのか。

郵送している方の内、使っていない方の割合は把握しているか。

⇒助成券にナンバーを振っており、事業者から請求がきた助成券を数えることで把握している。今年度は2,150名程度に交付した。郵送対象者のうち、利用していない方の割合は把握していないが、次の会議までに確認する。

(4) 裾野市内循環線バスの利用状況について 【資料No.6】

・資料に沿って説明

【質疑】

○高橋委員(東地区長):公文名5区に住んでおり、最寄りのバス停が稲荷だが、歩いて800m、カドイケまで1.2キロ、390名程度いるがバス利用者はいないと思う。

交通空白地だと考えている。バスを増やしたり、様々な交通手段を考えてはどうか。

⇒地元の声を聞きながら、対策を考えていきたい。

どういうビジネスモデルになっているのか、収支計画や費用対効果がどうなっているのかを見直して考えないといけない。

○勝又委員(深良支所):向田小と東小が統合され、夏場に通学距離が延びることへの対応を保護者に聞かれた。バスの乗車時刻は8時10分より遅くなってほしくないという意見もある。利用者の意見を聞いたうえで、バスのダイヤなど検討してもらいたい。

○藤井委員:サービス継続で維持している路線のため、今後維持できるかが大切。

総運行経費が、利用者一人当たりいくらかかっているかを確認してほしい。

バスの必要性、存続を考えるうえで把握しておく。

通学手段としても循環線の利用が想定されることから、様々な事例を参考に検討していただきたい。

(5) 裾野市地域公共交通計画の事業実施状況の評価 【資料No.7】

・資料に沿って説明

・賛成多数で承認

【質疑】なし

(6) 地域公共交通確保維持事業に係る計画について 【資料No.8】

(国庫補助事業申請関係)

・資料に沿って説明

・賛成多数により承認

【質疑】なし

(7) 「交通空白」解消緊急対策事業について 【資料No.9】

・資料に沿って説明

【質疑】

○藤井委員:取り組みはいいが、スケジュールが間に合うか気になる。交通空白地域をどう設定し、地域住民と合意形成していくことを考えると、すでに地区選定がある程度できているのか。デマンド、ライドシェアでもやり方が全く異なる。費用対効果も考えないと実証後の課題になる。デマンド

では採算が取れずに補助券を出すほうがいいという場合もある。丁寧にやっていただきたい。
伊豆市で公共ライドシェアの事例があるため、自治体間で情報共有もしたほうがいい。
⇒地域選定は今行っており、プロポ方式で事業者選定も行う予定。行政主導で課題感をもって実施していく。

・賛成多数により承認

○藤井委員：実証運行から本格運行に移る際、収支率を決め、自治会も負担をして実施した事例があるが、1人当たりの経費について、市がどれだけ補助するかが課題となった。

裾野市の場合、地域の特性上、市の負担が膨れ上がる恐れがある。

一過性で終わらずに、どう仕組みとして残していけるか、地域住民の本気度が上がってこないといけない部分もある。

課題解決にあたって、事務局から民間や住民に力を借りようとする姿勢があってもいいと思う。

6 その他

(1)ハッピーライド in 静岡プロジェクト(静岡県地域交通課)【資料No.10】

・静岡県地域交通課より資料に沿って説明

【質疑】

○藤井委員：自治体を一枚岩にするために静岡県でこういったフォローをしたのか。収支についてプラスが生まれたとあるが、親が乗ることで、バス事業者にとってもプラスになっている面があると思うが、そういった仕組みを紹介できるものがあるか。東日本と西日本で事業について協力的かどうかなど違いがある気がするが、静岡の事例では地域差は生じたのか。

○山本氏(県地域交通課代理出席)：初の取り組みになったが、否定的な意見はあまりなかったと聞いている。運賃協議会など、自治体に負担をかけた部分はある

親子で乗る方が多く、事務局でモデルコースを企画し、HPや乗り方の周知を行った。

東部や伊豆半島は土日が走っていない場合があり、地域差を感じた。

7 閉会

・今年度は3回の開催を予定。

・次回は10月ごろを予定